

モンゴル

主要データ

国名〔英名〕	モンゴル [Mongolia]
面積 (km ²)	1,564,116
海岸線延長 (km)	0
人口 (百万人)	3.0
人口密度 (人/km ²)	1.9
GDP (十億 US\$)	11.74
一人当り GDP (US\$)	3,922.61
主要鉱産物：鉱石	銅、モリブデン、金、蛍石
主要鉱産物：地金	銅
鉱業管轄官庁	鉱物資源庁、原子力庁
鉱業関連政府機関	鉱物資源エネルギー省、国家専門検査庁
鉱業法	鉱物資源法、原子力エネルギー法、一般鉱物資源法
ロイヤルティ	国内販売 燃料炭及び一般鉱物については販売価額の2.5%、その他の鉱物は5%。 海外輸出 輸出額の5%+国際市場価格及び製品加工度に応じた率
外資法	<ul style="list-style-type: none"> ・投資法 (2013年10月3日) ・投資基金法 (2013年10月3日)
環境規制法 (環境影響調査制度、環境・排出基準の有無等)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境保護法(環境影響調査制度、環境基準有り) ・水資源保護地域・森林地帯における鉱物資源の探査・利用の禁止に関する法律
鉱業公社	Erdenes MGL、Erdenes Oyu Tolgoi、Erdenes Tavan Tolgoi、Erdenet (モンゴル 51%、ロシア 49%)、MongolRosstsevtment (モンゴル 51%、ロシア 49%)、Mon-atom (放射性鉱物資源を管轄)
鉱業活動中の民間企業	Ivanhoe、Rio Tinto、Areva
近年の鉱業関連問題 (資源ナショナリズム、労働争議、環境問題等)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鉄道・電力等のインフラ未整備 ・ Oyu Tolgoi 銅鉱山開発を巡る問題 ・ Tavan Tolgoi 炭鉱開発を巡る問題 ・ 砂金採掘や石炭輸送道路建設に伴う自然破壊 ・ ウラン調査による環境問題 (家畜の死滅)
2015年のトピックス	<ul style="list-style-type: none"> ・ Tavan Tolgoi 炭田国際入札の中止 ・ モンゴル政府と Rio Tinto 間で Oyu Tolgoi の坑内掘鉱山開発計画締結 ・ Turquoise Hill Resources 社が Oyu Tolgoi の坑内掘鉱山開発における 44 億 USD のシンジケートローン契約を 15 の国際銀行と締結 ・ ロシア・中国との政治、経済連携の促進 ・ 経済危機リスク増大

1. 鉱業一般概況

モンゴルは鉱物資源に富む国であり、主要鉱物には石炭、銅、ウラン、蛍石などがある。また、モリブデン（生産量：世界第10位（0.7%）、埋蔵量：世界第7位（1.5%））、タングステン等のレアメタルのポテンシャルもある。鉱業はモンゴルの基幹産業の1つであり、GDPの3割、工業生産の7割、輸出の8割を占める。

2012年6月、エルベグドルジ大統領とアルタンホヤグ首相の率いる民主党連立政権が政権交代にて発足し、これまで鉱物資源開発を外資主導で行っていたところ外資参入規制を強化する等、資源ナショナリズムの動きが顕在化した。2014年11月にはサイハンビレグ首相へ交代した。しかし、資源安などを背景に景気が低迷したことから、国民の民主党に対する不満は高まり、2016年6月の総選挙では人民党が再び勝利し、政権を取り戻した。新首相には、モンゴル人民党のエルデネバト議員が選出された。

・Tavan Tolgoi 炭田

サイハンビレグ首相は、経済成長を確保・支援するため、「経済低迷克服対策」を発表し積極的に海外からの投資を誘致し、Oyu Tolgoi 銅鉱山、Tavan Tolgoi 炭田など大規模プロジェクトを活性化させる政策を取った。

モンゴル政府は、Tavan Tolgoi 炭田事業を支援する目的で国際入札を再開し、2014年12月にはEnergy Resources(蒙)・Shenhua Energy Group(中)・住友商事(日)の3社コンソーシアムが落札、2015年4月に合意に至った。しかしその後、Tavan Tolgoi 炭田開発案が「投資契約及び関連する資料」「TT 鉱床開発に関する予算、コスト計算書」「Erdenes Tavan Tolgoi 社との投資契約」「Ukhaa Khudag→Gashuunsukhait 鉄道のPPP 契約案」「協力事業契約案」と共に国会に提出されたが、国会はモンゴルの利益に合わないとの理由で審議を拒否し、2015年6月24日にTavan Tolgoi 炭田開発案を引き戻した。

石炭市場価格の低下、インフラ開発不足によりモンゴルの石炭業が困難に直面した他、Tavan Tolgoi炭田で採掘事業を行なっているEnergy Resources社、Erdenes Tavan Tolgoi公社、Tavan Tolgoi社（スモール）間で価格競争が行われているため、2015年の石炭輸出量は対前年同期比25.7%減の14,472.7千tになった。輸出額も同34.5%減の555.9百万US\$になった。Tavan Tolgoi炭田での事業が困難に直面している間、豪州・Aspire Mining社が北部モンゴルでOvootという原料炭の鉱床を確定し、JORC規定で255百万t（モンゴルで第2位）の埋蔵量を確認した。

・Oyu Tolgoi 銅鉱山

世界屈指の銅埋蔵量を誇るウムヌゴビ県Oyu Tolgoi銅鉱山は、サイハンビレグ首相のリーダーシップにより2015年5月19日、モンゴル政府とRio Tintoとの間でOyu Tolgoiの坑内掘鉱山開発計画が締結された。その結果、2015年12月16日、Turquoise Hill Resources社がOyu Tolgoiの坑内掘鉱山開発における44億USDのシンジケートローン契約を15の国際銀行と締結。融資先はBNP Paribas、豪州・ニュージーランドの銀行グループ、ING銀行、Societe Generale、SMBC、Stanadart Chartered Bank、Canadian Impereial Bank of Commerce、Credit Agricole、Intesa Sapaolo、オーストラリア・ナショナル銀行、Natixis、HSBC bank、BTMU等。IFC、MIGAが融資先に対して22億USDの保証を与えた。今は、2025年のフル稼働を目指し進んでいる。

Oyu Tolgoi銅鉱山案件と共に、Tsagaan Suvaraga銅鉱山案件（モンゴル・MAK社）も本格的

に動き出した。2015年10月3日、モンゴル政府とMAK社との間で、Tsagaan Suvaraga銅鉱山案件における「投資安定協定」が締結された。Erdenes Tsagaan Suvraga社は2018年から毎年150千tの銅精鉱をドイツへ輸出する15年間の契約をFerrostaal社及びEuoroKhan社と締結。

2. 鉱業政策の主な動き

政権交代以降、国内で資源ナショナリズムが高まり、外資参入には厳しい制度となっていたが、外国からの投資および輸出の激減による経済危機リスクが高まり、再び外資導入へ向けた動きが現れ始めている。

ただし、新たに制定された投資関係法により以下の通り外資の参入障壁が残っている。

- ・ 鉱業権はモンゴルで登記し、かつ納税実績のある企業のみが取得可能。
- ・ ロイヤルティは通常の5%に加え鉱産物の価格が上がるほど累進される。

2015年1月：新規探鉱の国土の一部に対して再発行（4年後再開）。

2015年2月：鉱物資源法が一部改正。政府は「戦略的鉱床」の権益の一部（34～51%）を取得しなくてよい。その場合、政府と投資家との間に締結される「鉱床開発協定」で同問題を調整する。政府が「戦略的鉱床」の株主にならない場合、シェアの代わりに特別ロイヤルティを納税する。特別ロイヤルティは対象鉱床によりそれぞれ異なるが5%以下である。

2015年2月：“水源地、地表水の保護エリア、森林地帯での鉱物資源探査、探鉱、採掘を禁止する法”の規則を改正。

2015年2月：サイハンビレグ首相の日本国訪問にてEPA（経済連携協定）」の実施取極への署名が行われた。

2015年5月：モンゴル政府とRio Tintoとの間にOyu Tolgoiの坑内掘鉱山開発計画が締結

2015年6月：政治的に合意できなかったため、政府がTavan Tolgoi炭田開発案を引き戻した。

2015年10月：モンゴル政府とMAK社との間、Tsagaan Suvaraga銅鉱山案件における「投資安定協定」が締結された。

2015年10月：モンゴル政府とGrid State Corporation社（中）との間に“Shivee Energy”総合電力プロジェクトに関するMOUが締結。

2016年12月：Turquoise Hill Resources社がOyu Tolgoiの坑内掘鉱山開発における44億USDのシンジケートローン契約を15の国際銀行と締結。

3. 主要鉱産物の生産・輸入・消費・輸出動向

(1) 主要金属鉱石生産量

表 3-1. 金属鉱石生産量（純分）

鉱種	2013年 (千t)	2014年 (千t)	2015年 (千t)	対前年増減 比(%)	世界シェア(%)	ランク
銅	189.0	251.3	326.7	30.0	1.7	15
ニッケル	315.6	410.8	316.8	-22.9	5.6	6
クロム	26.2	47.1	31.2	-33.8	0.1	14
マンガン	3.0	3.0	3.0	0.0	0.0	27

（出典：World Metal Statistics Yearbook 2016）

(2) 主要金属地金生産量

鉱種	2013年 (t)	2014年 (t)	2015年 (t)	対前年増減 比(%)	世界シェア (%)	ランク
セレン	46.0	46.0	46.0	0.0	1.8	12

(出典：World Metal Statistics Yearbook 2016)

(3) 主要金属地金消費量

鉱種	2013年 (千t)	2014年 (千t)	2015年 (千t)	対前年増減 比(%)	世界シェア (%)	ランク
ニッケル地金	0.2	0.2	0.4	119.4	0.0	40

(出典：World Metal Statistics Yearbook 2016)

(4) 主要金属輸出量

表 3-2. 金属鉱石・地金等輸入量 (グロス)

鉱種	2013年 (千t)	2014年 (千t)	2015年 (千t)	対前年増減 比(%)	主な輸出相手国
銅					
鉱石	445.8	357.5	338.7	-5.3	日本、中国
地金	87.9	65.6	61.8	-5.8	中国、韓国、タイ
亜鉛鉱石	35.7	6.4	0.0	-100.0	韓国
金地金 (t)	0.4	3.4	2,497.0	73,884.2	スイス、日本
ニッケル					
鉱石	46,212.4	43,863.7	29,932.0	-31.8	中国、日本、香港
フェロニッケル	0.0	0.1	0.1	-25.0	中国
マンガン鉱石	6.6	1.6	0.0	-100.0	アラブ首長国連邦
クロム					
鉱石	119.2	40.3	29.2	-27.6	中国、日本、チリ
フェロクロム	0.4	0.0	0.0	-	中国
希土類 (t)	264.2	592.0	540.9	-8.6	日本、ベトナム
鉄鉱石	1,536.0	289.1	1,730.6	498.5	日本、中国、香港

(出典：World Metal Statistics Yearbook 2016, World Metal Statistics May 2016, Global Trade Atlas, International Trade Centre)

(5) 主要金属輸入量

表 3-3. 金属鉱石・地金等輸出量

鉱種	2013年 (千t)	2014年 (千t)	2015年 (千t)	対前年増減 比(%)	主な輸入相手国
銅					
鉱石	351.7	157.4	139.2	-11.6	豪州、PNG、インドネシア

地金	12.2	8.7	7.8	-10.2	中国、日本、インド ネシア
鉛地金	8.1	11.8	11.3	-4.2	マレーシア、米国、 台湾
亜鉛地金	10.2	11.9	12.7	6.6	韓国、日本、カナダ
金地金 (t)	0.0	0.0	0.1	2,400.0	日本、中国、シンガ ポール
チタン鉱石	1.9	0.7	1.6	115.6	豪州、タイ、ウクラ イナ
マンガン 鉱石	0.0	0.0	0.0	-100.0	マレーシア
フェロマンガン	2.1	0.2	2.4	870.2	インド、南ア、韓国
フェロクロム (t)	152.0	370.0	239.2	-35.3	台湾、メキシコ、オ ランダ
コバルト化合物 (t)	1.4	2.4	0.5	-79.5	ベルギー、シンガポ ール、中国
希土類 (t)	0.1	76.7	0.1	-99.9	台湾、米国

(出典：出典：World Metal Statistics Yearbook2016, World Metal Statistics May 2016, Global Trade Atlas, International Trade Centre)

4. 鉱山・製錬所状況

表 4-1. 鉱山・製錬所一覧

鉱山・製錬所名	権益所有企業(権益：%)	鉱種	生産量
Erdenet 鉱山	モンゴル政府 (51) ロシア政府 (49)	銅(精鉱及び SxEw) モリブデン	-
Tumurtiin Ovoo 鉱山	Mongolian Metalipex (49) 中国有色金属建設股份有限公司 (51)	亜鉛	
Boroo 鉱山	Centerra Gold Inc (100)	金	59,224oz (2011年)
Khukh Gan 工場	Beren Group (52.5) Fiber Investment (17)	銑鉄	
Oyu Tolgoi 鉱山	Turquoise Hill Resources Ltd (66) ※Rio Tinto が 51% 株式保有 モンゴル政府 (34)	銅、金、銀、モリブデン	年産能力銅 42 万 t、金 46 万 oz、銀 300 万 oz

(出典：Erdenes Mongol 国営会社等各鉱山企業関連資料)



図 4-1. 主要鉱山位置図

5. 探鉱状況

新規鉱業権付与禁止によるほか、鉱物資源法に規定される鉱区維持料納付制度により、国土に占める鉱区の割合は2005年44.5%、2009年25.2%、2010年16%、2011年14.2%、2012年に13.4%、2013年に9.4%、2014年には7.7%と減少したが2015年1月に探鉱権の発行を再開したため、2015年に国土に占める鉱区の割合が8.9%に上昇。

2015年には、3,329件（国土の8.9%の13,931.5km²）の鉱業権が付与された。その内訳は1,835件の探鉱権（国土の8.1%の12,611.2km²）と1,494件の採掘権（国土の0.8%の1,320.3km²）である。

2015年の新規確定埋蔵量について、34.1tの金、31,911千tの鉄、287千tのモリブデン、2,951tのタングステン、4,254.3百万tの石炭、2,249千tの蛍石の埋蔵量などが「国家鉱物資源埋蔵量登録簿」に登録された。2015年に48鉱山、製錬プラントが事業を開始。

6. 我が国との関係

2015年2月、サイハンビレグ首相が日本を訪問し安倍首相と会談、同訪問中、EPA（経済連携協定）の実施取極への署名も行われた。

同月にエネフボルド国会議長が日本を公式訪問し町村・日本衆議院議長、安倍首相と会談。エネフボルド国会議長が安倍首相との会談で東進鉄道開発に関して日本側と協力したい立場を表明。また、JBIC、JICAの総裁とも会談。

2015年5月、東京で開催された“第21回国際交流会議”に講演したエレベグドルジ大統領が安倍首相と会談。双方が東進鉄道開発への協力、クリーン・コール技術などに関して意見交換を行なった。

2015年10月、安倍首相が中央アジア5カ国訪問の直前、10月22日、モンゴルを訪問しエレベグドルジ大統領、国会議長、サイハンビレグ首相と会談。同訪問中、モンゴル政府と日本政府と間に協力事業に関するMOUが締結された。

同MOUの範囲以内、11月23～27日、日本の経済産業省のHaruhiko Ando 貿易、安藤晴彦戦略輸出交渉官を代表とするワーキングチームがモンゴルを訪れ Shivee Ovoo 炭鉱、Oyu

Tolgoi, Tavan Tolgoi, Mushgai Khudag (レアアース) などの鉱山、鉱床、新規鉄道現場などを視察。

7. その他トピックス

特になし

(2015. 10. 30 北京事務所 森永正裕)